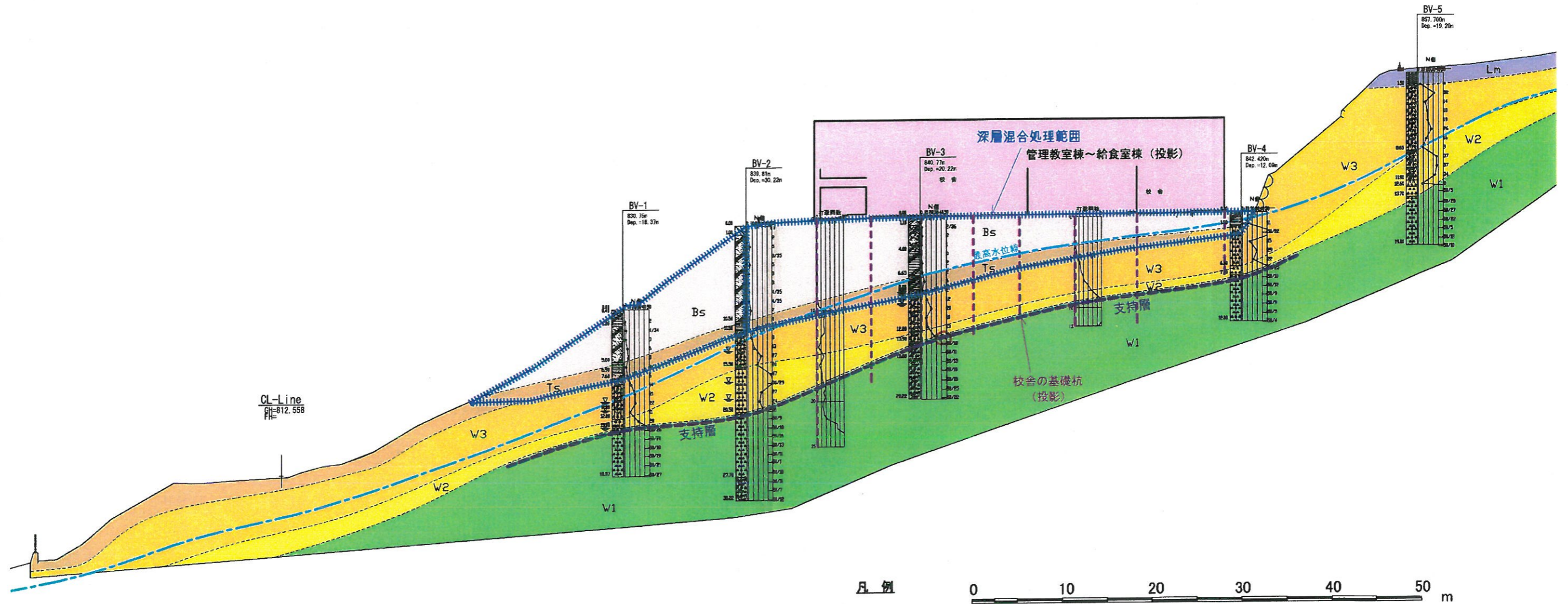


I 測線 地質断面図



凡例



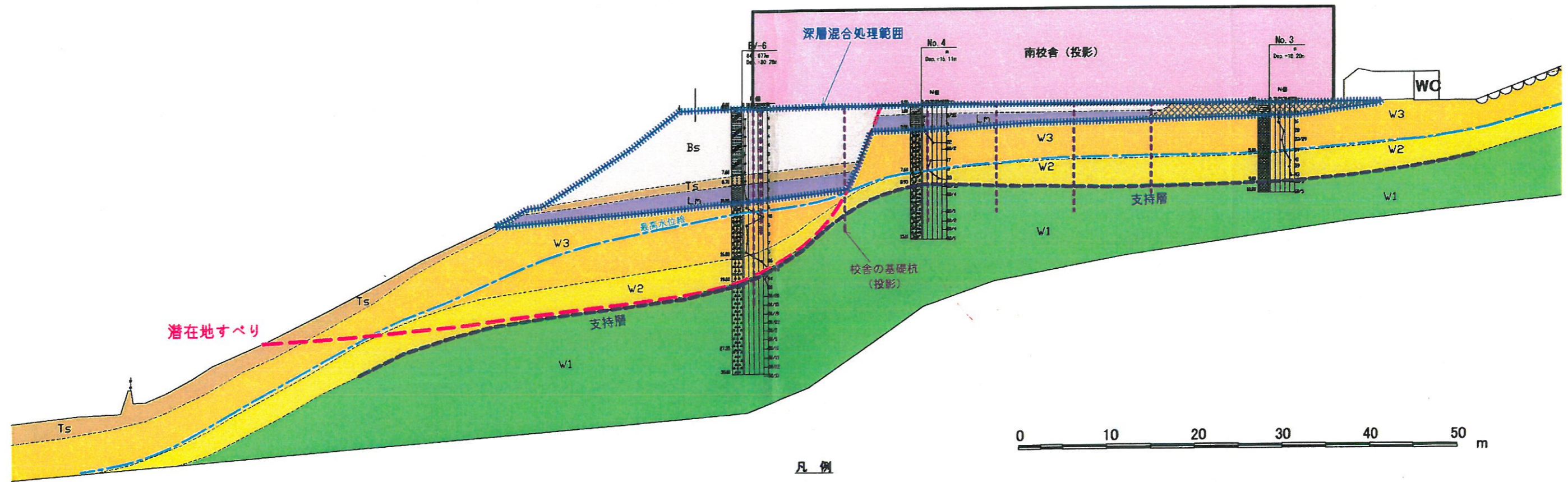
- 地下水位線
- 支持層
- 軟弱地盤の改良範囲

時代	地層名	岩相	記号	記事	設計N値
第四紀	完新世	盛土	Bs	径0.5~8cmの礫を20~50%含む。基質はシルト~砂でゆるい。礫率・礫径・基質とも不均質。	3
		表土~崖錐堆積物	Ts	表土~旧表土は、腐植質シルトからなり軟弱。崖錐堆積物は、礫混り砂からなる。	2~4
		ローム	Lm	風化により粘土化した火山灰。砂質の粘性土で軟弱。	2
	更新世	塩礫累層	火山礫凝灰岩~凝灰角礫岩~凝灰岩	火山礫凝灰岩と凝灰角礫岩を主とし、凝灰岩を挟在する。硬質の安山岩礫~岩塊を多含する。基質はシルト質砂からなり、固結度は低い。	

風化区分	強風化岩	中風化岩	弱風化
記号	W3	W2	W1
性状	岩芯まで褐色化と軟質化が著しい。土砂状コアとなり、岩片は指圧でつぶせる。	細亀裂が多く、岩片状~角礫状に分離しやすい。亀裂沿いに褐色化~軟質化するが、岩片は指圧でつぶせない。	やや亀裂が多く、岩片状~短棒状コアを主とする。ほぼ硬質だが、亀裂沿いにやや軟質化する部分多い。
N値【設計N値】	ほぼ25以下 【8】	ほぼ25以上 【16】	50以上 【83】

図-4 地質断面図 (I 測線)

Ⅱ 測線 地質断面図



- 可能性のある潜在すべり面 (盛土前から存在)
- 地下水位線
- パイプ歪計変動区分
- 潜在変動以下の微弱な変動
- 有意な変動はないが、すべり面の可能性のある深度
- 支持層

時代	地層名	岩相	記号	記事	設計N値
第四紀	盛土	礫質シルト ~ 礫質砂	Bs	径0.5~8cmの礫を20~50%含む。 基質はシルト~砂でゆるい。 礫率・礫径・基質とも不均質。	3
	表土~ 崖錐堆積物	礫混り砂~ 腐植質シルト	Ts	表土~旧表土は、腐植質シルトから なり軟弱。 崖錐堆積物は、礫混り砂からなる。	2~4
	ローム	火山灰質 粘性土	Lm	風化により粘土化した火山灰。 砂質の粘性土で軟弱。	2
更新世	塩礫累層	火山礫凝灰岩 ~ 凝灰角礫岩 ~ 凝灰岩		火山礫凝灰岩と凝灰角礫岩を主とし、 凝灰岩を挟在する。 硬質の安山岩礫~岩塊を多含する。 基質はシルト質砂からなり、固結度 は低い。	

凡例

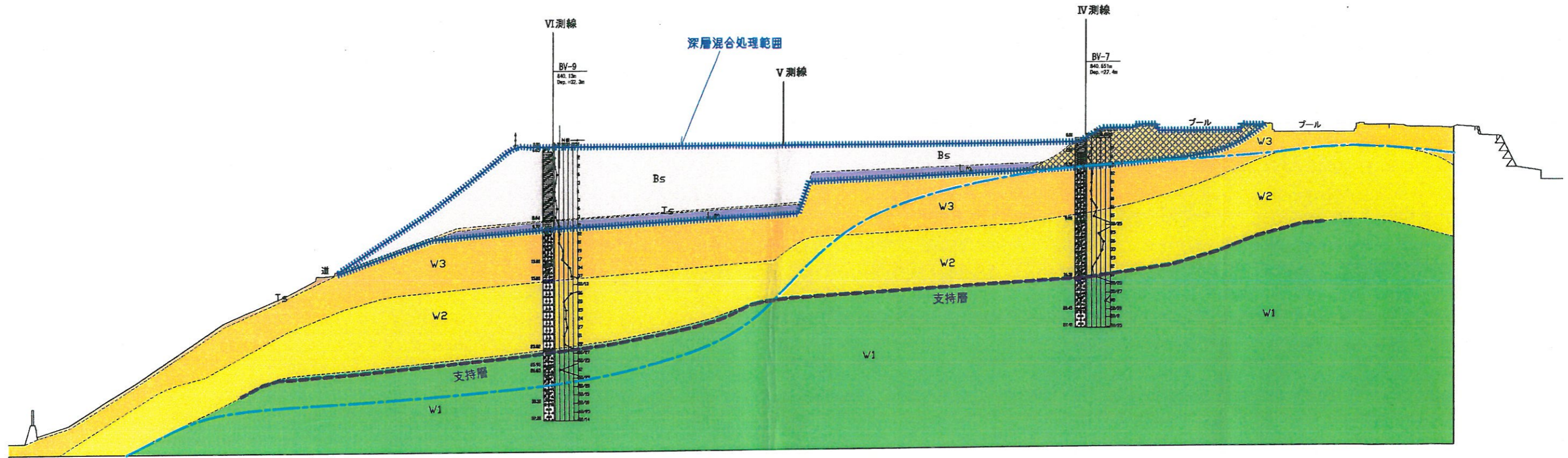
風化区分	強風化岩	中風化岩	弱風化
記号	W3	W2	W1
性状	岩芯まで褐色化と軟質化が著しい。主砂状コアとなり、岩片は指圧でつぶせる。	細亀裂が多く、岩片状~角礫状に分離しやすい。亀裂沿いに褐色化~軟質化するが、岩片は指圧でつぶせない。	やや亀裂が多く、岩片状~短棒状コアを主とする。ほぼ硬質だが、亀裂沿いにやや軟質化する部分多い。
N値 【設計N値】	ほぼ25以下 【8】	ほぼ25以上 【16】	50以上 【83】

強風化岩のうち、N値5以下の軟弱部

軟弱地盤の改良範囲

図-5 地質断面図 (Ⅱ 測線)

Ⅲ測線 地質断面図



凡例



時代	地層名	岩相	記号	記事	設計N値
第四紀	盛土	礫質シルト ～礫質砂	Bs	径0.5～8cmの礫を20～50%含む。 基質はシルト～砂でゆるい。 礫率・礫径・基質とも不均質。	3
	表土～ 崖錐堆積物	礫混り砂～ 腐植質シルト	Ts	表土～旧表土は、腐植質シルトから なり軟弱。 崖錐堆積物は、礫混り砂からなる。	2～4
	ローム	火山灰質 粘性土	Lm	風化により粘土化した火山灰。 砂質の粘性土で軟弱。	2
更新世	塩礫累層	火山礫凝灰岩 ～凝灰角礫岩 ～凝灰岩		火山礫凝灰岩と凝灰角礫岩を主とし、 凝灰岩を挟在する。 硬質の安山岩礫～岩塊を多含する。 基質はシルト質砂からなり、固結度 は低い。	

- 地下水位線
- パイプ歪計変動区分
- 潜在変動以下の微弱な変動
有意な変動はないが、
すべり面の可能性のある深度
- 支持層

風化区分	強風化岩	中風化岩	弱風化
記号	W3	W2	W1
性状	岩芯まで褐色化と軟質化 が著しい。土砂状コアと なる。岩片は指圧でつぶ せる。	細亀裂が多く、岩片状～角礫 状に分離しやすい。 亀裂沿いに褐色化～軟質化する が、岩片は指圧でつぶせない。	やや亀裂が多く、岩片状～短棒 状コアを主とする。 ほぼ硬質だが、亀裂沿いにやや 軟質化する部分多い。
N値 【設計N値】	ほぼ25以下 【8】	ほぼ25以上 【16】	50以上 【83】

- 強風化岩のうち、N値5以下の軟弱部
- 軟弱地盤の改良範囲

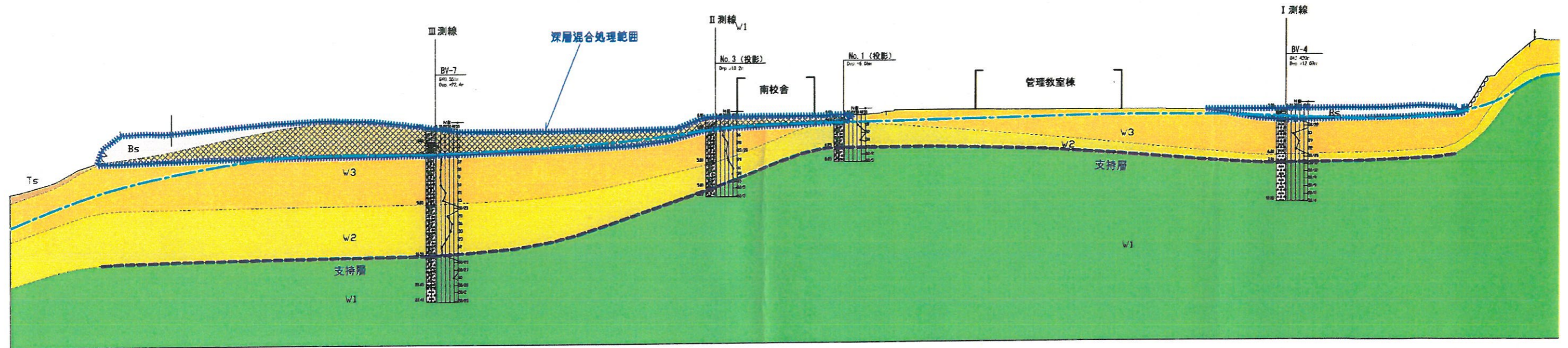
図-6 地質断面図 (Ⅲ測線)

IV測線 地質断面図

IV測線

GH=840.11

FH=



凡例



- 地下水位線
- パイプ歪計変動区分
- 潜在変動以下の微弱な変動
- 有意な変動はないが、すべり面の可能性のある深度
- 支持層

時代	地層名	岩相	記号	記事	設計N値
第四紀	盛土	礫質シルト ~礫質砂	Bs	径0.5~8cmの礫を20~50%含む。 基質はシルト~砂でゆるい。 礫率・礫径・基質とも不均質。	3
	表土~ 崖麓堆積物	礫混り砂~ 腐植質シルト	Ts	表土~旧表土は、腐植質シルトから なり軟弱。 崖麓堆積物は、礫混り砂からなる。	2~4
	ローム	火山灰質 粘性土	Lm	風化により粘土化した火山灰。 砂質の粘性土で軟弱。	2
更新世	塩礫累層	火山礫凝灰岩 ~凝灰角礫岩 ~凝灰岩		火山礫凝灰岩と凝灰角礫岩を主とし、 凝灰岩を挟む。 硬質の安山岩礫~岩塊を多含する。 基質はシルト質砂からなり、固結度 は低い。	

風化区分	強風化岩	中風化岩	弱風化
記号	W3	W2	W1
性状	岩芯まで褐色化と軟質化が著しい。土砂状コアとなり、岩片は指圧でつぶせる。	細亀裂が多く、岩片状~角礫状に分離しやすい。亀裂沿いに褐色化~軟質化するが、岩片は指圧でつぶせない。	やや亀裂が多く、岩片状~短棒状コアを主とする。ほぼ硬質だが、亀裂沿いにやや軟質化する部分多い。
N値【設計N値】	ほぼ25以下 【8】	ほぼ25以上 【16】	50以上 【83】

強風化岩のうち、N値5以下の軟弱部 軟弱地盤の改良範囲

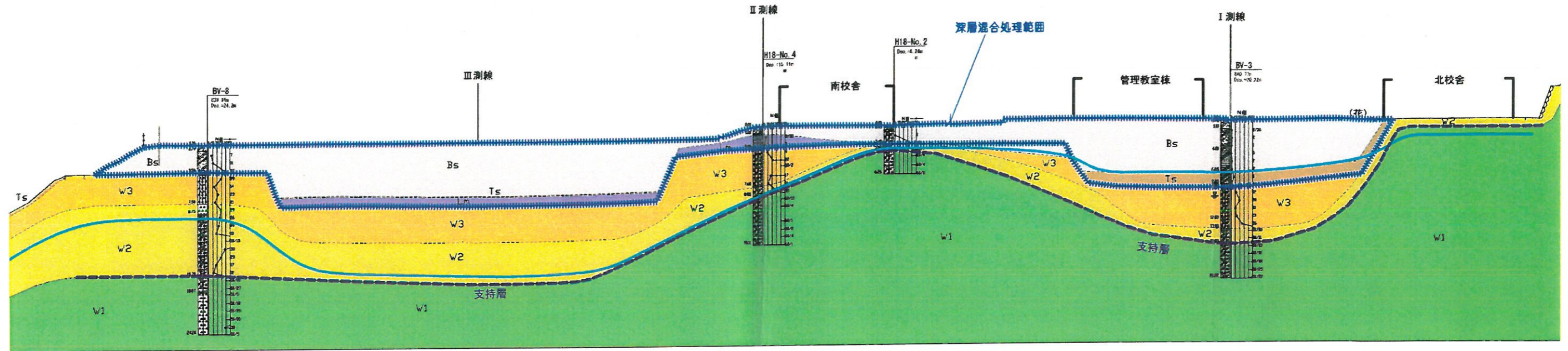
図-7 地質断面図 (IV測線)

V測線 地質断面図

V測線

GH=840.02

FH=



凡例



- 地下水位線
- パイプ歪計変動区分
- 潜在変動以下の微弱な変動
- 有意な変動はないが、すべり面の可能性のある深度
- 支持層

時代	地層名	岩相	記号	記事	設計N値
第四紀 更新世	盛土	礫質シルト ～礫質砂	Bs	径0.5～8cmの礫を20～50%含む。 基質はシルト～砂でゆるい。 礫平・礫径・基質とも不均質。	3
	表土～ 崖麓堆積物	礫混り砂～ 腐植質シルト	Ts	表土～旧表土は、腐植質シルトから なり軟弱。 崖麓堆積物は、礫混り砂からなる。	2～4
	ローム	火山灰質 粘性土	Lm	風化により粘土化した火山灰。 砂質の粘性土で軟弱。	2
第四紀 更新世	塩類累層	火山礫凝灰岩 ～凝灰角礫岩 ～凝灰岩		火山礫凝灰岩と凝灰角礫岩を主とし、 凝灰岩を挟在する。 硬質の安山岩礫～岩塊を多含する。 基質はシルト質砂からなり、固結度 は低い。	

風化区分	強風化岩	中風化岩	弱風化
記号	W3	W2	W1
性状	岩片まで褐色化と軟質化が著しい。土砂状コアとなる。岩片は指圧でつぶせる。	細亀裂が多く、岩片状～角礫状に分離しやすい。亀裂沿いに褐色化～軟質化するが、岩片は指圧でつぶせない。	やや亀裂が多く、岩片状～短棒状コアを主とする。ほぼ硬質だが、亀裂沿いにやや軟質化する部分多い。
N値 【設計N値】	ほぼ25以下 【8】	ほぼ25以上 【16】	50以上 【83】

軟弱地盤の改良範囲

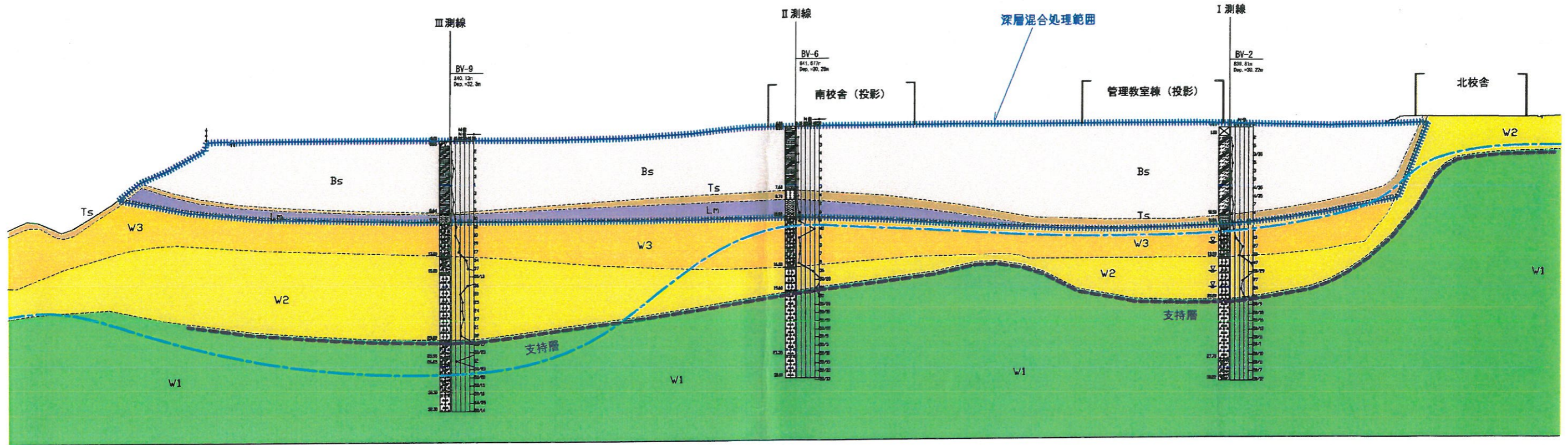
図-8 地質断面図 (V測線)

VI測線 地質断面図

VI測線

GH=840.13

FH=



- 地下水位線
- パイプ歪計変動区分
- 潜在変動以下の微弱な変動
- 有意な変動はないが、すべり面の可能性のある深度
- 支持層

時代	地層名	岩相	記号	記 事	設計N値
第四紀	盛 土	礫質シルト ～礫質砂	Bs	径0.5～8cmの礫を20～50%含む。 基質はシルト～砂でゆるい。 礫率・礫径・基質とも不均質。	3
	表土～ 崖麓堆積物	礫混り砂～ 腐植質シルト	Ts	表土～旧表土は、腐植質シルトから なり軟弱。 崖麓堆積物は、礫混り砂からなる。	2～4
	ローム	火山灰質 粘性土	Lm	風化により粘土化した火山灰。 砂質の粘性土で軟弱。	2
第三紀	塩嶺累層	火山礫凝灰岩 ～凝灰角礫岩 ～凝灰岩		火山礫凝灰岩と凝灰角礫岩を主とし、 凝灰岩を挟在する。 硬質の安山岩礫～岩塊を多含する。 基質はシルト質砂からなり、固結度 は低い。	

凡 例

風化区分	強風化岩	中風化岩	弱風化
記号	W3	W2	W1
性状	岩芯まで褐色化と軟質化 が著しい。土砂状コアと なせる。	細亀裂が多く、岩片状～角礫 状に分離しやすい。 亀裂沿いに褐色化～軟質化する が、岩片は指圧でつぶせない。	やや亀裂が多く、岩片状～短棒 状コアを主とする。 ほぼ硬質だが、亀裂沿いにやや 軟質化する部分多い。
N値 【設計N値】	ほぼ25以下 【8】	ほぼ25以上 【16】	50以上 【83】

軟弱地盤の改良範囲

図-9 地質断面図 (VI測線)